

2023印西大師札所一覧表（サイクリング順路表）の説明

1 札所について

印西大師に関する資料のうち、次のア～エを基に札所をリストアップしました。

ア 現在の印西大師第1番から第89番の番号のついた札所

イ 明治4年3月「印西八十八ヶ所手引鏡」（略称：手引鏡）に掲載されている札所（番外を含む。）

ウ 印旛歴史民俗資料館の「印西大師巡拝順路図」（略称：資料館、または巡拝順路図）に掲載されている札所（番外を含む。）

エ（平成28年度など）「印西大師巡拝順路行程表」（略称：行程表、または順路行程表）に掲載されている札所

これらの中には、現在は札所ではなくなっているもの（例えば、旧第77番砂田虚空蔵堂など）や、私の調査が進んでいないため所在地が不明であったり、名称と所在地が一致しているのか未確定なものが多くあります。

なお、ア～エには掲載されていないが、それらの札所の近くにある大師堂も一部掲載してあります。

2 札所の並び順について

明治4年の手引鏡と同様に印西大師第1番札所の泉倉寺を起点とし、自転車で札所を右回りで巡るルートを考え、札所を並べました。

手引鏡や巡拝順路図などを参考としていますが、自転車で走りやすく安全なルートを優先しているため一筆書きのようにはいかず、行った道を戻ってきたり、同じ集落を2回通ったり、上り坂を避けたりしているので、実際の印西大師の順路とは似ているようで、実際はかなり異なります。

3 名称の「※」印、「※※」印、「(仮称)」について

ア 「名称」の後の「※」印は、「未確定札所」という意味で、大師堂ではあるもののそれが名称と一致しているかどうか確定できていないという意味です。つまり大師堂であることは確認できたが、手引鏡や巡拝順路図などに掲載されている札所かどうか確認できていない札所です。

イ 「※※」印は「不明札所」という意味で、大師堂がどこにあるのか（中にはその名称も）不明な札所という意味です。手引鏡に出ている札所がどこにあるのかわからない場合（例えば、「平塚・榎大みち」No.167/297など）や、巡拝順路図に○印があるだけで名称の記載がなく、どこにあるかもわからない場合（例えば、「平塚・名称不明※※」No.299など）です。

ウ 「(仮称)」は、大師堂であるもののその名称が不明のため私が仮に付けた名称という意味です。

これらの「不明」とは、単に私から見て不明なだけです。誰も知らないという意味ではありません。したがって、今後判明した時点で随時更新していきます。

4 所在地の「付近」について

札所の所在地の後に付いている「付近」は、札所のある場所ではないが、札所の近くにある建物の住所という意味です。例えば、第59番大森・星光院は建物がなく（そのため住居表示がなく）畑のなかに大師堂があり、Googleマップでは住所検索ができないので、近くの民家（印西市大森2265-2の建物）の近くにありますという意味で、「印西市大森2265-2付近」と表記したものです。

5 備考の「No.」について

次のとおり各札所に番号を付定しました。個別の札所の情報を掲載するため、ここだけの事務的・便宜的な番号です。

ア 現在の印西大師第1番から第89番の番号のついた札所については、No.001～089としました。

イ 明治4年の手引鏡に掲載されている△印の付いた番外札所については、No.101～172としました。

ウ 手引鏡で遷座済みの旧第13番の師戸・城ノ内堂（観音堂）はNo.173、旧第38番の平賀・離島（花島山）はNo.174、旧第77番の砂田・虚空蔵堂はNo.175、旧第77番の白井新田・観音堂跡はNo.176、旧第82番の笠神・原ノ堂はNo.177を付定しました。また遷座が決まるも遷座されなかった「仲村」をNo.178としました。なお同様に遷座が決まるも遷座されなかった「発作」は△印で表示されている掛所（番外札所）として第171番を付しています。

No.175とNo.176は、かつて札所であったということから番号を付しましたが、今は大師堂がなく、札所跡ということになります。

エ 印旛歴史民俗資料館の巡拝順路図に掲載されている番外札所については、第1番札所の泉倉寺を起点とし、その近くの小倉・小倉の堂をNo.201、泉・真常寺（巡拝順路図では「泉新田・円光寺」）をNo.202、以下巡拝順路図の札所を右回りに付定し、最後は亀成・東光院でNo.304としました。巡拝順路図で×印のついている札所（No.271松崎高野原、No.283十余一、No.288白井新田旧第77番）や、既に遷座され番号も○印もなく名称のみ掲載されている札所（No.245花島）についても番号を付しました。したがって、イヤウで手引鏡に掲載されている札所にNoを付しているにもかかわらず、エでさらにNoを付定した札所が多くあります。例えば、発作・最勝院は、手引鏡ではNo.171ですが巡拝順路図ではNo.303を付し、結果として2つの番号を付したことになります。

オ 手引鏡にも巡拝順路図にも掲載されていないが（平成28年度などの）順路行程表に出てくる札所があります。平賀・古井戸堂をNo.351、草深・専徳寺をNo.352としました。ただし、古井戸堂はNo.248の虚空蔵堂と、専徳寺はNo.150・268のしもの堂と、それぞれ同一の御堂ではないかと推測しています。同一であった場合は、No.351、352の番号を削除し、修正していきます。

カ 最後に、ア～オに出てこない御堂で、自転車道で札所を巡るルート上に大師堂がある場合があります。そのうち結縁寺・(仮称)頼政塚東大師堂をNo.401、武西・(仮称)武西集会所前大師堂をNo.402としました。ほかにも個人管理の大師堂などがあるかもしれません。なお、平塚大師の御大師様については道路沿いにたくさんありすぎて、ここでは除外しています。

キ なお、例えば、第25番船尾・東光院などのように、番号のプレートが貼られた大師堂とは別に番外の大師堂がある札所があります。これについては備考欄に「番外大師堂あり」などと表示し、特にNoを付していません。中には、例えば、第54番平塚延命寺や第84番将監密蔵院のよう

に（印西大師の御堂とは別に）東葛印旛大師や四郡大師の御堂がある札所もあります。

6 民家の敷地内の大師堂について

多くの御大師様は、当該大師堂のある寺院や集落で管理されているので誰でも参拝できるようになっていますが、中には民家の敷地内において個人で管理されている大師堂（いわば氏神様のようなもの）があります。外部から自由に参拝できるよう道路沿いに建てられ、（敷地に入らず）路上から参拝できるよう建てられた大師堂もありますが、中には敷地の奥に入らないと参拝できない大師堂もあります。その場合は管理されている方から許可をいただいたうえで参拝しましょう。

印西大師札所の個別資料の説明

2023印西大師札所一覧表（サイクリング順路表）の札所名をクリックすると札所ごとの説明資料（PDF版）が表示されます。小倉の光堂を例に各項目の意味は次のとおりです。

1 名称 (No.012)〔手引鏡：光堂〕〔資料館：光堂〕〔行程表：光堂〕

〔説明〕① (No.012) 事務的・便宜的に付定した番号です。

②〔手引鏡：光堂〕 「印西八十八ヶ所手引鏡」に「光堂」と記載されています。

③〔資料館：光堂〕 印旛歴史民俗資料館の「印西大師巡拝順路図」に「光堂」と記載されています。

④〔行程表：光堂〕 (平成28年度)「印西大師順路行程表」に「光堂」と記載されています。

2 場所 印西市小倉1138 宝珠院観音堂

泉倉寺から道程約200m

GPS座標 35.81974830561933, 140.11717608880858

〔説明〕①「印西市小倉1138 宝珠院観音堂」 札所のある寺院などの住所です。

例えば、「印西市小倉1138」を右クリックで「コピー」し、「Googleマップを検索する」欄に右クリックで「貼り付け」ると場所が表示されます。ただし、札所の中には、Googleマップ上で住所を特定ができないところもあります。例えば、第59番大森・星光院は道路沿いの畑に大師堂があり、Googleマップでは住所検索ができないので、隣の民家（印西市大森2265-2）の近くにありますがという意味で、「印西市大森2265-2付近」と表記してあります。

②「泉倉寺から道程約200m」 近くの札所から、Googleマップで測定した距離を示しています。自転車で走りやすい道を選んで（自転車で走りにくい未舗装道路や、車の通行が多くかつ歩道が無い道路はできるだけ避けて）ルートを作成しているので、車や徒歩ならもっと短い道のりで行ける場合もあります。

③「GPS座標 35.81974830561933, 140.11717608880858」 表示されている数値を右クリックで「コピー」し、「Googleマップを検索する」欄に右クリックで「貼り付け」ると大師堂の位置が表示されます。

④「地図」 前の札所からのルート図を表示しています。車の往来が激しいにもかかわらず歩道がない道は避けていますので、少し遠回りになっているルートもあります。ただし、良い迂回路がなく、車が多い道を走らざるを得ないルートがあります。例えば、岩戸・高岩寺と広済寺や船尾・東光院に行く道路は車が多いので特に注意しましょう。

3 由緒 天台宗 天龍山 泉倉寺

泉倉寺は、・・・・・印西地方の48ヶ寺の本寺でもありました。(印西名所図会)

〔説明〕どのようないわれや来歴のある寺院・御堂・霊場なのか、印旛郡誌や印西名所図会などから抜粋し、掲載しました。情報がなくて未記載の場合もあります。

4 御堂 大師堂の中に丸彫の御大師様が1体あり。

〔説明〕大師堂の中に御大師様が何体祀られているかを記載しました。

昔あった大師堂の中には、その後の事情で同じ集落の別の大師堂に遷されたと思われる御大師様があるので、その可能性を考えるために敢えて御堂の中も写真を撮らせていただき、何体の御大師様をお祀りしているのか確認しました。

石像の形態としては、浮彫り（レリーフ）や線刻はごくわずかで、ほとんどが丸彫りの御大師様です。なお、弘法大師の姿を描いたお札を「御影（おみえ）」といいます。これも御大師様で、紙にもかかわらず1体、2体と数えるそうです。

御堂の外に弘法大師像や、石柱内蔵型の御大師様が祀られていた場合は、その旨、記載してあります。

5 境内 昭和42年改築の本堂(本尊は阿弥陀如来)、元禄4年(1691年)建立の庫裏、大きな銀杏、印西七福神(毘沙門天)などがあります。いつ行っても清掃されきれいになっています。

〔説明〕大師堂の周辺の様子を記載しました。個人的な感想の部分もあります。

6 写真 (2019.06、2020.11、2023.01撮影)

〔説明〕大師堂と御大師様などの写真を原則6枚掲載しました。中には9枚や3枚の場合もあります。あえて撮影年月の古いものを掲載した札所もあります。

7 情報

〔説明〕その他、当該寺院や札所などの情報を掲載しました。

○御詠歌について

多くの大師堂には、四国八十八カ所の写しを意味する御詠歌が掲げられています。本サイトで掲載したのは「泉倉寺本」(印西町史所収)の御詠歌です。

なお、四国八十八ヶ所をWeb検索すると各札所の御詠歌が出ていますが、それと泉倉寺本の御詠歌とは微妙に違うものが多くあります。例えば、第11番藤井寺の御詠歌は、四国八十八ヶ所霊場会HPでは「色も香も無**比**中道の藤井寺 真如の**波**のたたぬ日もなし」ですが、泉倉寺本では「色も香も無**非**中道の藤井寺 真如の**浪**のたたぬ日もなし」、また、第27番神峯寺の御詠歌は、四国八十八ヶ所霊場会HPでは「**みほとけ**の**恵み**の心神峯 **山**も**誓**いも**高**き**水音**」ですが、泉倉寺本では「**三佛**の**誓**の心神の峯 **刃**(やいば)の**地獄假令**(たとい)**ありとも**」とあるように、一部の文言が異なります。現地に行って書き間違ったというより、御詠歌が掲載されている冊子やチラシによって若干の違いがあったのでしょうか。

8 関連Web

〔説明〕ホームページがある寺院などはURLを記載しました。

用語の意味について

このサイトで使用している言葉の意味です。間違った使い方をしていところがあるかもしれませんが、何分にも浅学非才の身ゆえご容赦ください。

○**札所** 印西大師において巡拝する弘法大師の霊場をいいます。

札所番号（現在は第1番から第89番まで）が付された89ヶ所の霊場のほか、番号が付されていない霊場を含みます。かつては巡拝していたが、現在は大師講から脱退したため巡拝の対象になっていない霊場もあります。

また、後述の「掛所」に対して札所番号が付された霊場を単に「札所」と言ったり、「本番札所」、「第〇番札所」と言う場合もあります。

○**本番** 札所番号が付された霊場をいいます。

「番付」又は「番付札所」や「札所番付」、「有番札所」という言い方もあります。

使用例として、印旛歴史民俗資料館の「印西大師順路図」には、「本番札所の（遷座の）協議をされたのは昭和十年代当初と推察されます」との記載があります。

なお、明治4年の「印西八十八ヶ所手引鏡」（以下「手引鏡」という。）に「本番道 凡廿九里十四丁半二十間」との記載があります。ここで「廿九里十四丁半二十間」（約115.5 k m）というのは、番外札所を含めた印西大師全体の距離のことを言っているように見えます。とすれば、単に「札所番号が付された霊場」だけではないということになりますが、ここでは「印西大師順路図」の使用例に倣い、「札所番号が付された霊場」という意味で使用しています。

参考：29里(113,890.83m) + 14丁半(1,581.808m) + 20間(36.4m) = 115,509.038m ≒ 約115.5 k m
 (1里 = 約3,927.27m、1丁 = 約109.09m、1間 = 約1.8182m ≒ 約1.82m)

○**番外** 札所番号が付されていない霊場をいいます。

「番外札所」、「掛所」ともいいます。

○**掛所**（かけしょ） 番外の札所のこと、札所番号が付されていない霊場をいいます。

使用例として、手引鏡には「△」印で表記されており、「掛所 七十一ヶ所」との記載があります。明治初期には、掛所（番外札所）が71ヶ所あったことがわかります。

参考までに、同様の使用例として「東葛印旛大師、正式名称『准四国八十八ヶ所東葛印旛大師巡拝（送り大師）』は、四国霊場を模した八十八の札所・十六の掛所を、五日間（5月1日～5日）かけて巡行・巡拝する行事として、二百有余年、伝承されています。」（「准四国八十八ヶ所東葛印旛大師巡拝（送り大師）」公式サイト）があります。

しかし、これと異なり、相馬霊場では「札所ではないが巡拝の途中で特別に立ち寄る場所を掛所といい、札所間が離れている場合は休憩所ともなる」（我孫子市市史研究センター編「新四国相馬霊場八十八ヶ所を訪ねる」）としています。札所ではなく巡拝途中で立ち寄る神社や休憩所などの意味のようです。

○**遷座** 札所が他の場所へ移ることをいいます。

使用例として、印旛歴史民俗資料館の「印西大師順路図」には「第18番 荒野 凧の堂 白井の中へ遷座決まるものの遷座せず現在に至る」、「本番札所の協議をされたのは昭和十年代当初と推察されます」との書き込みがあります。遷座の経緯や遷座されないまま現在に至った理由はわかりません。

また、遷座という言葉は使用していませんが、手引鏡には「(表紙裏書・異筆) 十八同(番) 仲村 荒野 なぎのどう」との記載があり、これは第18番札所を荒野から仲村に遷座することを言っています。

なお、仏のすわることを仏座(ほとけのざ)といい、仏像が安置されている台を台座というので、遷座とは仏像そのものが移ることを言うのではないかと思うのですが、遷座に伴い弘法大師の石像も移動したのかどうかについては確認できていません。

○**小廻り大師** 地区や集落ごとに結成された個々の大師講において、地区や集落内の霊場を巡拝すること、又はその大師講のことをいいます。

印西大師講は、地区や集落ごとの大師講を越えて広く巡拝するので「大廻り」とも言うようです。

なお、草深地区の草深八十八ヶ所天王堂(丸山観音大師堂)のように一つの御堂に89体の弘法大師像を安置したのも小廻り大師のひとつかと思えます。

○**大師堂** 御大師様が祀られた御堂をいいます。

単に御堂という場合もあります。大師堂の中に御大師様の石像がありますが、一つの御堂に一体とは限らず、数体祀られている場合もあります。大師堂に祀られた御大師様の石像は、ほとんどが丸彫りです。

なお、印西大師の御堂のうち第1番から第88番の御堂には「印西大師 才○番 施主 岡本」と書かれたプラスチック製のプレートが貼られています。

○**御大師様** 当然のことですが、弘法大師(空海)のことです。

ただし、印西は天台宗のお寺が多いので大師堂も天台宗の寺院や堂庵の敷地内にあることが珍しくありません。そのため、数は少ないものの弘法大師とは別に伝教大師(最澄)と思われる石像を安置している大師堂もあります。

○**札所名** 大師堂のある寺院・堂庵、神社、集会所、地名などの名称です。

手引鏡で「第一番 おぐら せんそう寺 しゃかとう」は、第一番札所は小倉の泉倉寺釈迦堂の傍らにありますと読む(五十嵐行男著「印西地方史よもやま話」というように、札所名は大師堂のある寺院や堂庵名であって、大師堂そのものの名称ではありません)。

中には第68番「よしたか おふたけ」(吉高 大竹)のように、地名なのか堂名なのかわからないものもあります。大竹の現在の状況から推察すると大師堂以外特に一般に了知された堂庵などがないので、大字吉高字大竹にある大師堂、つまり地名でこう呼んだのではないのでしょうか。

なお、お堂に名札が付されている大師堂(師戸・助右衛門大師など)は、例外的に札所名と御堂名が一致します。また、札所名が不明なため仮称で付した御堂の名称(鹿黒大師堂など)や白井大師の個人管理の御堂(白井新田・橋本大師など)についても一致しますが、ここだけの便宜的名称でもありますので、その旨ご注意ください。

○**発心寺(ほっしんじ)** 悟りを求める心を起こすお寺、御大師様に心願を立てるお寺ということから、巡礼を始めるお寺のことで、発願寺(はっがんじ)ともいいます。印西大師では基本的には笠神南陽院、平賀来福寺及び師戸広福寺のことです。

○**結願寺(けちがんじ)** すべての札所を巡礼し、煩惱が消え願いが叶う、最後にお参りするお寺のことです。印西大師では基本的には発心寺=結願寺であることから、笠神南陽院、平賀来福寺及び師戸広福寺のことです。

○**元村、元寺** 発心寺及び結願寺となる笠神南陽院、平賀来福寺及び師戸広福寺の三寺を「元寺」といい、元寺のある集落を「元村」と言うそうです。印西大師は元村の講の方々が代々熱心に取り組んで来たお陰で現代まで続いてきたと言えます。参考までに、令和6年度は笠神、令和7年度は師戸が当番となって全体を取り仕切るようです。

○**お接待** 巡拝する方々をねぎらうことです。現在は宿泊はなく、昼食も各自持参となり、簡素化されています。それでも印西大師の時は、(その年の当番の?) 札所の役員さんがテーブルにお茶やお菓子などを用意して、巡拝の方々のお接待をしています。

略称及び参考文献・Webについて

○**手引鏡** 明治4年3月「印西八十八ヶ所手引鏡」(斎藤正巳家所蔵文書 印旛村史近代資料集Ⅱ)

○**資料館、または巡拝順路図** 印旛歴史民俗資料館の「印西大師巡拝順路図」

○**行程表、または順路行程表** (平成28年度など) 印西大師順路行程表

- ・平成19年度印西大師順路行程表(案) (印西市民アカデミー第9期生卒業論集所収)
- ・平成24年度印西大師巡拝順路行程表(案) (印西市民アカデミー第14期生卒業論集所収)
- ・平成28年度印西大師順路行程表 (印西歴史愛好会「印西大師八十八か所 札所めぐりで郷土の歴史を楽しむ」所収)
- ・令和6年度印西大師巡拝順路行程表(案)

○**梶原納経帳** 明治39年7～8月に梶原石五郎氏が印西大師を巡礼したときの納経帳(村上明彦「新四国巡礼の記録～印西大師八十八ヶ所～」2021年3月利根川文化研究第44号所収)

○**迅速測図** 明治13～19年に陸軍参謀本部陸地測量部が作成した2万分の1の地図

○**明治40年の古地図** 明治39年測図明治40年製版(「今昔マップ on the web」)

○**白井大師札所寺院部落** 「白井組合大師札所寺院部落」(梶原明峰 古文書ヨリ写ス 平成八年九月吉日) 白井市郷土史の会機関紙「たいわ」No.36号に掲載されているものと同じ。

○**白井大師巡拝順路図** 山口忠男「昭和63年10月1日～2日白井町大師巡拝路」(白井市郷土史の会機関紙「たいわ」No.36号(2021(令和3)年3月31日発行))

○**印旛郡誌** 大正2年7月31日「千葉県印旛郡誌」千葉県印旛郡役所編集発行

○**本埜村誌** 大正5年5月30日「千葉県印旛郡本埜村誌」千葉県印旛郡本埜村役場編集発行

○**平成6年寺院堂庵明細表** 平成6年8月末現在「寺院・堂庵明細表」(平成8年3月「印西町史・民俗編」所収)

○**平成6年神社明細表** 平成6年8月末現在「神社明細表」(平成8年3月「印西町史・民俗編」所収)

○**印西町調査報告書(印西市調査報告書)**

- ・昭和56年3月「印西町石造物第二集 小林地区調査報告書」印西町教育委員会発行
- ・昭和58年3月「印西町石造物第三集 草深地区調査報告書」印西町教育委員会発行
- ・昭和59年3月「印西町石造物第四集 草深地区の特色ある石造物」印西町教育委員会発行
- ・昭和62年3月「印西町石造物第五集 船穂地区調査報告書」印西町教育委員会発行
- ・平成元年3月「印西町石造物第六集 永治地区調査報告書」印西町教育委員会発行

- ・平成2年3月「印西町石造物第七集 大森地区調査報告書」印西町教育委員会発行
- ・平成3年3月「印西町石造物第八集 木下地区調査報告書」印西町教育委員会発行
- ・平成7年3月「印西町石造物調査報告書(追録)」印西町教育委員会発行
- ・令和4年12月「印西市石造物調査報告書 本埜地区の石造物」印西市教育委員会発行
- 白井町調査報告書
 - ・昭和61年3月「白井町石造物第一集」白井町教育委員会発行
 - ・昭和62年3月「白井町石造物第二集」白井町教育委員会発行
 - ・昭和63年10月「白井町石造物第三集」白井町教育委員会発行
 - ・平成元年10月「白井町石造物第四集」白井町教育委員会発行
- 印西の歴史 印西市史編さん委員会編集・印西市立木下交流の杜歴史資料センター発行
 - ・第12号(令和2年3月) 五十嵐行男「印西大師は享保六年に創設された」
- 白井市の民俗 1 2003「白井市の民俗 1～民間信仰～」白井市教育委員会発行
- 白井市の民俗 2 2006「白井市の民俗 2～人生儀礼・年中行事～」白井市教育委員会発行
- 印西名所図会 平成5年3月31日 印西町町史編さん室編集発行
- 新・印西名所図会 平成28年3月25日 印西市史編さん室編集発行
- 五十嵐「印西大師八十八か所(印西・白井編)」 2005年4月8日 五十嵐行男監修「印西大師八十八か所(印西・白井編)」北総ふるさと文庫発行
- 五十嵐「印西大師八十八か所(印旛・本埜編)」 2004年3月12日 五十嵐行男監修「印西大師八十八か所(印西・白井編)」北総ふるさと文庫発行
- 五十嵐「印西地方史よもやま話」 平成5年10月30日 五十嵐行男著「印西地方史よもやま話」聚海書林発行
- 印西歴史愛好会編「印西大師八十八か所札所」 「印西大師八十八か所 札所めぐりで郷土の歴史を楽しむ」平成29年9月30日 印西歴史愛好会 印西大師編集委員会編集発行
- 白井市郷土史の会機関紙「たいわ」 白井市郷土史の会機関紙「たいわ～語り伝える白井の歴史～」No33(2018年3月31日発行)、No36(2021年3月31日発行)、No37(2022年3月31日発行)、No38(2023年3月31日発行)
- 北総線の小さな旅 平成21年4月「北総線の小さな旅」北総鉄道株式会社発行

- ちばらきの神社・寺院 かつて印西市や白井市などの神社や寺院・御堂のほとんどを網羅し、たくさんの写真で紹介していたWebサイト(<http://akamemanaz2.web.fc2.com/>)があり、たいへん重宝しました。印西大師についてもここでリスト化されていました。現在は、別の内容に入れ替わってしまいました。同じ内容で良いのでぜひ復活してほしいものです。
- 猫の足あと お寺や神社の検索サイトです。 <https://tesshow.jp/>
- GO DOWN GAMBLIN' 印西大師を歩いて巡ったときのブログで、7日間で約150 km を歩いて巡ったようです。すごいですね。 2022年3月28日～2022年4月8日「印西大師歩き遍路」
https://godowngamblin.net/ohenro/ohenro_all.htm
- YOBIUMA Satsuki(呼馬皐月) 印西大師を(自転車で?)巡ったときのブログで、札所だけでなく途中の道路の写真も掲載して道案内にも配慮されています。東葛印旛大師や四国遍路など多くの霊場を巡っているので、掲載している写真も専門家のようです。石造物について造詣

が深いのでしょう。

2023年4月10日～9月12日「印西大師」 <https://g1satsuki.hatenablog.com/>

- かまがや散歩** 鎌ヶ谷だけでなく、印西や白井の寺社をたくさん紹介しているホームページです。 https://kamagaya-sanpo.blogspot.com/2015/01/blog-post_15.html
- さわらび通信** 北総地域の石造物について多くの報告書を発表されています。印西市などで石造物の講演会の講師もされています。 <http://sawarabi.a.la9.jp/>
- いんざい再発見** 草深嶺雲院など印西の地域史を深く掘り下げ、専門家のみならず素人にもわかる読み物として紹介しています。 <http://inzairekishih.blog.fc2.com/>
- 印西市HP** 特に「歴史・文化財」を参考にさせていただきました。
<https://www.city.inzai.lg.jp/category/2-18-0-0-0.html>
- 白井市HP** 特に「白井市の歴史・文化財」を参考にさせていただきました。
<https://www.city.shiroy.chiba.jp/soshiki/kyoiku/k08/sho009/bun002/bun003/1421159635324.html>
また、「広報しろい」の「歴史のしずく」も興味深いものが多く掲載されていました。
- 千葉県公式観光物産サイト「千葉観光ナビ」** お寺や神社を含め北総地域の観光スポットが掲載されています。 <https://maruchiba.jp/index.html>
- ほかにも参考になったWebがたくさんありますが、すべて紹介しきれないことをご容赦ください。

2024.05一部修正